

I 学校教育目標

共に育つ ～ 考えをみがく 心をみがく 仲間とみがく ～

II 前年度に残された課題	III 本年度の重点課題	IV 来年度に残された課題
<p>○基礎基本の確実な定着を図るための指導をさらに工夫し充実させる。 ○授業公開・研究協議の持ち方を工夫しながら、教職員の学びあいの中で授業力向上を図る。 ○道徳科における「考え議論する道徳」の在り方について研修を深める。 ○児童に関する情報交換と課題共有をより徹底し、個に応じた対応を組織的に行う。 ○児童の自己肯定感、自己有用感を高め、実感できる取組を、工夫しながら進める。 ○話し合い活動をさらに活性化し、自主的・自発的に問題解決する力を伸ばす取組を充実させる。 ○体験的学習を充実させるとともに、英語教育やICTを活用した新しい授業の取組などについても研修を深めながら取組を進める。 ○児童の実態を把握し、体力・運動能力向上の取組を効果的に行い、情報発信する。 ○校内の安全対策や危機管理について対応を一層高める。</p>	<p>【考えをみがく】 ①基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため、指導法の工夫に取り組む。 ②他者と交流しながら考えを深める力を着実に育てる。 ③筋道を立てて考え表現する活動を通して、思考力・判断力・表現力を高める。 【心をみがく】 ④児童に関する課題を共有し、全職員でルールの徹底とマナーの育成に取り組む。 ⑤自己の成長を振り返り、よさを認め、実感できる取組を充実させる。 ⑥多様な交流・体験的学習を通して、互いを理解し認め合う大切さを学ばせる。 【仲間とみがく】 ⑦話し合い活動を活性化し、自主的・自発的に問題を解決する力を伸ばす。 ⑧集団でのかかわりの場を通して、社会性を育て、自己有用感を高める活動を工夫する。 ⑨「体づくり運動」の充実と、体力・運動能力向上の取組をすすめる。</p>	<p>○児童が自己有用感を感じられるような取組を充実させて、自己肯定感の向上を図る。 ○ケース会議の取組を充実させ、生徒指導上の問題に組織対応する仕組みを確立する。 ○基礎・基本的な内容の確実な定着を図るために、指導法をさらに工夫して充実させる。 ○朝学習の内容を家庭に周知し、学校と家庭が連携して児童の基礎学力の定着を図る。 ○学校と家庭が連携して取組を進め、児童に学習習慣や読書週間を身に付けさせる。 ○様々な方法で児童同士の意見交流を活性化し、思考力・判断力の育成を図る。 ○授業公開・研究討議を通じて教職員が学び合うことで授業力向上を図り、児童の学力向上へとつなげる。 ○特別の教科道徳における「考え議論する道徳」の在り方について研修を深める。 ○コロナ禍における体験的学習の充実を図り、多様性のある豊かな学びを児童に経験させる。 ○教育活動全般を通じて、児童の体力向上を図る。 ○学校運営協議会の設置に伴い、学校と地域の協働の在り方について知見を深める。 ○校内の安全対策や危機管理についての対応を一層高める。</p>

「1」 （重点課題番号） 評価項目	[2]具体的達成目標と評価指標	[3]自己評価	[4]外部アンケートの分析		[5]自己評価		[6]学校関係者評価
	具体的に、何を、いつまでに、どの水準まで、数値化 公表日 7月14日 <input type="checkbox"/> ホームページ <input checked="" type="checkbox"/> 文書配布 <input checked="" type="checkbox"/> 説明会実施 <input checked="" type="checkbox"/> その他	中間評価 評価日 10月7日 公表日 3月3日 公表方法 <input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input type="checkbox"/> 文書配布 <input checked="" type="checkbox"/> 説明会実施 <input checked="" type="checkbox"/> その他	児童生徒アンケート 実施日 9/1 12/18 公表日 11/26 3/3 <input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input checked="" type="checkbox"/> 文書配布 <input checked="" type="checkbox"/> 説明会実施 <input checked="" type="checkbox"/> その他	保護者アンケート 実施日 12/4～12/13 公表日 3月3日 <input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input type="checkbox"/> 文書配布 <input checked="" type="checkbox"/> 説明会実施 <input checked="" type="checkbox"/> その他	最終評価(成果と課題) 評価日 1月22日 公表日 3月3日 <input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input type="checkbox"/> 文書配布 <input checked="" type="checkbox"/> 説明会実施 <input checked="" type="checkbox"/> その他	課題の改善策等 1月22日 3月3日	評価者 5人 評価日 3月3日 公表日 3月23日 <input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input type="checkbox"/> 文書配布 <input type="checkbox"/> 説明会実施 <input checked="" type="checkbox"/> その他
			評定	評定			
	① ○「自主学習の手引き」により、適切な学習時間を家庭に示して児童や家庭に家庭学習の充実を促し、基礎学力の定着を図る。	B ・基礎学力の定着を図るために、朝学習において児童に漢字学習や計算練習、語句調べをさせることで、基礎学力の定着を図る。 【積極的意見90%】 ・「自主学習の手引き」により適切な学習時間を家庭に示し、児童や家庭に家庭学習の充実を促すことができた。 【積極的意見80%】	・朝の学習をがんばった。 【肯定的意見88%（中間）→89%（年度末）】 ・適切な時間での家庭学習ができた。 【肯定的意見70%（中間）→64%（年度末）】	・お子さんは、朝の学習を通して基礎学力を定着させていますか。 【肯定的意見78%】 ・お子さんは、「自主学習の手引き」で示した学年毎の自安の時間、家庭学習をしていますか。 【肯定的意見51%】	B ・基礎学力の定着を図るために、朝学習において児童に漢字学習や計算練習、語句調べをさせることができた。 【積極的意見70%】【肯定的意見100%】 ＊否定意見は0%で、達成できた。しかし、「少しした」という消極的意見が30%を占めており、今後は積極的意見の割合を増やしていくことが課題である。また、保護者の記述欄に「朝学習で何をしているのか分からない」という意見があり、周知徹底が図られていない。 ・「自主学習の手引き」により適切な学習時間を家庭に示し、児童や家庭に家庭学習の充実を促すことができた。 【積極的意見80%】【肯定的意見95%】 ＊教員の否定意見は5%であるが、児童、保護者ともに肯定的意見の割合が低く、教員と児童、保護者の意識に大きな乖離が見られる。	・学校だよりやツイッター等を活用して、保護者へ朝学習の内容等の情報発信を行う。 ・「自主学習の手引き」の内容の改善を図るとともに、学校だよりや学年だより等で、家庭学習に適切な時間について啓発の充実を図る。	・教師、児童と保護者で意識の差があるが、朝学習ではどんなことをしているのか。朝学習でしていることを、保護者に知らせていくことが必要である。 ・教師と児童、保護者で、適切な時間での家庭学習ができたかという認識が違っていることが、今後の課題である。この認識の違いをうめていく取組をしてほしい。
② ○特別の教科道徳において、書くことで自らの考えを明確にし、それをそれぞれが表現することで広めるという活動を取り入れることで、「考える道徳」議論する道徳の実践を目指す。 ○学習においてめあてを提示して学びの焦点化を図り、学習の振り返りを設定することで考えを深める力を着実に育てる。	B ・「考える道徳」議論する道徳を実践するために、書くことで自らの考えを明確にし、それをそれぞれが表現し広めるという活動を取り入れることができた。 【積極的意見63%】 ・考えを深める力を着実に育てるために、学習においてめあてを提示して学びの焦点化を図り、学習の振り返りを設定することができた。 【積極的意見68%】	・自分の考えたことを、ノートやプリントに書くことができた。 【肯定的意見72%（中間）→83%（年度末）】 ・学習した内容が、どんな内ようだったか分かった。 【肯定的意見89%（中間）→92%（年度末）】	・お子さんは、学習して分かったことや自分の考えを、ノートやプリントに書いていましたか。 【肯定的意見58%】 ・お子さんは、学校での学習内容を概ね理解できていますか。 【肯定的意見89%】	A ・「考える道徳」議論する道徳を実践するために、書くことで自らの考えを明確にし、それをそれぞれが表現し広めるという活動を取り入れることができた。 【積極的意見68%】【肯定的意見100%】 ＊今年度の校内研究の重点取組であるが、否定意見は0%で、達成できた。しかし、「少しした」という消極的意見が32%を占めており、来年度に向けて取組の充実をさらに図る必要がある。 ・考えを深める力を着実に育てるために、学習においてめあてを提示して学びの焦点化を図り、学習の振り返りを設定することができた。 【積極的意見65%】【肯定的意見100%】 ＊教員の否定意見は0%で、児童、保護者の肯定的意見の割合も高く達成できた。35%占めている消極的意見を積極的意見へと変換を図ることがことが課題である。	・「考える道徳」議論する道徳を実践するために、書くことで自らの考えを明確にするといった教育活動を継続するとともに、それを広めるための手立てについて研究部を中心に研究を進めて実践する。 ・児童、保護者ともに肯定的意見の割合が高い項目であり早急な改善は必要ないと考えるが、効果的な学習の振り返りのあり様について、校内研究等を通じて各自が研修できるようにする。	・中間期に比べて改善がされているのが良い。児童の中には、書くことが苦手という児童もいると思う。児童が持っているタブレットを活用して意見を交流していくということも必要であろう。 ・学習内容の定着という点で、児童も保護者も高い評価だが教師の積極的意見が低いのは、教師の意識が高いということだと思ふ。引き続き、教育活動に励んでほしい。	

③	○学習活動において、考えたことをノートやプリントにまとめ、それを整理して分かりやすく友達に伝えるような活動を設定する。	B ・学習活動において、考えたことをノートやプリントにまとめ、それを整理して分かりやすく友達に伝えるような活動を設定することができた。 【積極的意見50%】	・自分の考えを、クラスの友だちに分かりやすく話すことができた。 【肯定的意見64%（中間）→71%（年度末）】	・お子さんは、学習活動を通じて自分の意見や考えを言うようになりましたか。 【肯定的意見85%】	B ・学習活動において、考えたことをノートやプリントにまとめ、それを整理して分かりやすく友達に伝えるような活動を設定することができた。 【積極的意見61%】【肯定的意見100%】 *否定意見は0%であるが、消極的意見が39%を占めている。児童の肯定意見は中間期に比べて上昇している。 【積極的意見83%】【肯定的意見100%】 *教員の否定意見は0%で、児童、保護者の肯定的意見の割合も高く達成できたと考える。積極的意見の割合をさらに上昇させていきたい。	・人権教育部が中心となって校内研修を進めて各教員の人権意識のさらなる向上を図る。各々の教員は、あらゆる教育活動において、児童が考えや思いを表出する場の設定を行う。また、児童が自身を安心して表出できるように学級環境を整える。	・児童アンケートの結果が中間の時よりもよくなっている。改善が図られていると思う。今後は、ICTを活用してオンラインで即時的に意見交流していけるようにすることも大切になってくると思う。教員の評価が児童、保護者の評価に比べて低いが、今年はコロナ禍の中での教育活動であり、普段とは違った教育活動となってしまったことで、教員にも忸怩たる思いがあったと思う。来年度に期待したい。
④	○「学校生活のきまり」や「交通安全のは・ひ・ふ・へ・ほ」を用いて、ルールやマナーを守ることの大切さを伝え、児童らにルールやマナーを守ることを理解させる。  ○児童に関する情報を共有するための会議を毎月開催し、全職員で共通理解を図る。	A ・「学校生活のきまり」や「交通安全のは・ひ・ふ・へ・ほ」を用いて、ルールやマナーを守ることの大切さを伝え、児童らにルールやマナーを守ることを理解させた。 【積極的意見79%】 ・児童に関する情報を共有するための会議を毎月開催し、全職員で共通理解を図ることができた。 【積極的意見83%】	・学校生活のきまりや交通安全ルール、友だちとの約束を守った。 【肯定的意見91%（中間）→90%（年度末）】	・お子さんは、家でのきまりや交通安全ルール、友達との約束を守ることができていますか。 【肯定的意見93%】	A ・「学校生活のきまり」や「交通安全のは・ひ・ふ・へ・ほ」を用いて、ルールやマナーを守ることを大切さを伝え、児童らにルールやマナーを守ることを理解させた。 【積極的意見83%】【肯定的意見100%】 *教員の否定意見は0%で、児童、保護者の肯定的意見の割合も高く達成できたと考える。積極的意見の割合をさらに上昇させていきたい。 ・児童に関する情報を共有するための会議を毎月開催し、全職員で共通理解を図ることができた。 【積極的意見79%】【肯定的意見100%】 *教員の否定意見は0%であり、年間を通じて積極的意見の割合も高く、達成できたと考える。生徒指導部を中心にケース会議の仕組みを充実させたため、情報共有の機会が、ふえた。今後も教員間で児童に関する情報共有を図り、きめ細やかな指導を心がけたい。	・生徒指導部を中心に始めて、廊下歩行徹底のための各学級制作の注意喚起コーン設置の取組や、黙々清掃見回りの取組を継続させ、児童の規範意識の向上を図る。  ・児童の情報共有の充実を図り、学校全体で児童の見守りや指導を行う体制を整える。	・三者とも評価が高く、しっかりとした教育がされていると思う。ルールを守ることは社会に出たときに必要なことなので、学校でしっかりと身につけてほしい。  ・児童について教師間で情報共有することはとても大切だと思う。個別指導している教師と全体指導している教師がその児童について共通理解していることで、その児童について適切な指導をすることができると思う。
⑤	○教育活動全般を通じて、相手の立場を思いやった丁寧な言葉遣いをするように、児童に指導する。  ○ふれあいタイムや委員会活動、クラブ活動などで振り返りノートを記入する場面を設定し、自己の成長を確認したり良さを認めたりする機会を設ける。	A ・教育活動全般を通じて、相手の立場を思いやった丁寧な言葉遣いをするように、児童に指導することができた。 【積極的意見83%】 ・ふれあいタイムや委員会活動、クラブ活動などで振り返る場面を設定し、自己の成長を確認したり良さを認めたりする機会を設けた。 【活動を見合わせたため評価なし。】	・学校の先生、友だち、近所の人に、ていねいな言葉を使った。 【肯定的意見84%（中間）→84%（年度末）】	・お子さんは、近所の人や教員、友達に対して丁寧な言葉を使っていますか。 【肯定的意見84%】	A ・教育活動全般を通じて、相手の立場を思いやった丁寧な言葉遣いをするように、児童に指導することができた。 【積極的意見83%】【肯定的意見100%】 *教員、児童、保護者ともに肯定的意見の割合が高く、今年度の教育活動において達成できたと考える。時と場に応じた言葉遣いを身につけることは、社会性を身につけることにもつながるので、次年度も継続して課題解決を図ってきたい。  ・ふれあいタイムや委員会活動、クラブ活動などで振り返る場面を設定し、自己の成長を確認したり良さを認めたりする機会を設けた。 【積極的意見75%】【肯定的意見100%】 *教員の否定的意見は0%であり、概ね達成できたと考える。学校の様々な教育活動において、児童の自己成長確認の場の設定することができている。今後は、児童の自尊感情の醸成を図ることを意識した働きかけの充実を図ってきたい。	・教育活動全般を通じて、丁寧な言葉遣いをするように、児童への指導を継続していく。また、教員自身が児童のお手本となるよう、正しく丁寧な言葉遣いをするように、職員会議等で呼びかける。  ・様々な教育活動において、児童の自尊感情の醸成を図ることを意識した働きかけの充実を図っていく。	・三者とも評価が高く、しっかりとした教育活動がされていると思う。挨拶の励行などは、周りの大人たちがあきらめずに挨拶をし続けることで子どもたちからの挨拶も帰ってくると思う。教員をはじめ、まず周りの大人たちから子どもたちへ挨拶をしていくことが大切だと思う。  ・子どもたちが自己成長を感じることは自尊感情の獲得につながると思う。自尊感情は有意義な社会生活を営むために必要な社会性であるので、学校教育でしっかりと身につけるように指導してほしい。
⑥	○ふれあいタイムなどの異学年交流を通じて、立場の違う者への思いやりの心を児童に育む。	B ・思いやりの心を児童に育むために、ふれあいタイムなどの異学年交流を通じて、立場の違う者への配慮の必要性を指導することができた。 【活動を見合わせたため評価なし。】	・ふれあいタイムで、ちがう学年の人と協力することができた。 【肯定的意見90%（年度末）】  ・年下の子を大事にし、年下の子からしたわれたり、たよられたりした。 【肯定的意見65%（中間）→75%（年度末）】	・お子さんは、違う学年の子とも仲良くしていますか。 【肯定的意見90%】  ・お子さんは、年下の子を大事にしようとしていますか。 【肯定的意見93%】	B ・思いやりの心を児童に育むために、ふれあいタイムなどの異学年交流を通じて、立場の違う者への配慮の必要性を指導することができた。 【積極的意見79%】【肯定的意見96%】 *教員の否定的意見は4%であり、また、積極的意見も8割近くあることより、概ね達成できたと考える。児童の肯定的意見が中間期と比べて10ポイント上昇している。たてわり活動のみならず、人権教育や道徳教育、学級活動等あらゆる場面を捉えて、児童に思いやりの心を涵養することができた。児童の肯定的意見の割合のさらなる向上を目指し、学校全体として取組を進めていく必要がある。	・他者、特に立場の弱い者への共感を、たてわり活動の継続も含め、人権教育や道徳教育など、全ての教育活動を通じて児童に涵養していく。	中間期に比べて児童の評価が上がっている。たてわり活動が再開されたことが、児童らに良い影響を与えていると思う。異学年で交流ができるたてわり班活動はとても良い取組なので、今後も継続してほしい。

⑦	<p>○自主的・自発的に問題を解決するために、児童にとって身近な議題を学級会で設定し、話し合い活動を活性化させる。</p> <p>○ふれあいタイムや委員会活動、クラブ活動など、学校生活の様々な場面で児童らが話し合いをする機会を積極的に設け、協働的な課題解決の力を育てる。</p>	B	<p>・自主的・自発的に問題を解決するために、児童にとって身近な議題を学級会で設定し、話し合い活動を活性化させることができた。 【積極的意見55%】</p> <p>・ふれあいタイムや委員会活動、クラブ活動など、学校生活の様々な場面で児童らが話し合いをする機会を積極的に設け、協働的な課題解決の力を育てることができた。 【積極的意見75%】</p>	<p>・学級会で、よく考えて自分の意見を言った。 【肯定的意見59%（中間）→63%（年度末）】</p> <p>・人の意見をよく聞いてから、自分の意見を言った。 【肯定的意見76%（中間）→78%（年度末）】</p>	<p>・お子さんは、人の意見をよく聞いてから自分の意見を言おうとしていますか。 【肯定的意見73%】</p>	B	<p>・自主的・自発的に問題を解決するために、児童にとって身近な議題を学級会で設定し、話し合い活動を活性化させることができた。 【積極的意見65%】【肯定的意見100%】 *否定意見は0%で、積極的意見が中間期に比べ10ポイント上昇したことより、改善が図られて概ね達成できたと考える。今年度はコロナ禍でなかなか話し合い活動が活性化されにくい面があった。他の方法も用いて学級会で意見交流ができるようにしていく必要がある。</p> <p>・ふれあいタイムや委員会活動、クラブ活動など、学校生活の様々な場面で児童らが話し合いをする機会を積極的に設け、協働的な課題解決の力を育てることができた。 【積極的意見58%】【肯定的意見96%】 *教員の否定的意見は4%であり、児童の肯定的意見は中間期に比べ2ポイント上昇した。保護者の肯定意見も73%であり、概ね達成できたと考える。しかし、教員の積極的意見が中間期に比べ17ポイント下降している。話し合い活動においては、自分の考えを分かりやすく相手に伝えることが必要であるが、それ以上に相手の話をしっかりと聞いて状況を正しく理解・判断することが大切である。今後の教育活動においてもその点に注意して指導を継続していかねばならないと考える。</p>	<p>・児童が、自身を安心して表出できるような学級づくりを進めつつ、発言することが苦手な児童がいることも考慮して、タブレットを活用して意見を述べさせるなど意見交流の方法も工夫していく。</p> <p>・特活部からの書く活動の提案時に、活動内容についての提案だけでなく、活動を通じて児童に協働的な課題解決の力を育成するという視点も含めて提案するようにする。</p> <p>・中間期に比べて、教員、児童ともに評価が改善されているので良いと思う。学級会等での建設的な意見の発言は、有意義な社会生活を営むために必要な社会性であり、児童が身に付けなければならないものである。学校は集団生活の場であるので、今後も学校教育でこういった力をしっかりと身につけさせてほしい。</p> <p>・ふれあいタイムで異学年で交流するという経験が、子どもたちにとって生きる力を身につけることにつながっていると思うので、継続して取り組むとよいと思う。</p>
⑧	<p>○ふれあいタイムの時間には、高学年児童がリーダーとして働くことができるような支援を行い、異学年の児童同士が互いに認めあい、自己有用感をもつことができるようにする。</p> <p>○委員会活動において、円滑な学校生活のためにはどのようにすべきかを考えさせて委員会活動を遂行させ、児童が自己有用感を味わうことができるようにする。</p>	B	<p>・ふれあいタイムの時間には、高学年児童がリーダーとして働くことができるような支援を行い、異学年の児童同士が互いに認めあい、自己有用感をもつことができるような指導をすることができた。 【活動を見合わせたため評価なし。】</p> <p>・委員会活動において、円滑な学校生活のためにはどのようにすべきかを考えさせて委員会活動を遂行させ、児童が自己有用感を味わうことができるように支援することができた。 【積極的意見75%】</p>	<p>・ふれあいタイムでは、みんなで仲よく遊ぶには、どうしたら良いかを考えて行動できた。 【肯定的意見84%（年度末）】</p> <p>・気持ちよく学校生活を送るためには、どうしたら良いかを考えて、委員会活動を行った。 【肯定的意見73%（中間）→77%（年度末）】</p>	<p>・お子さんは、たてわり活動を通じて異学年の児童との関わりを深め、協働性を身に付けていますか。 【肯定的意見89%】</p> <p>・お子さんは、委員会活動を通じて、自分が人の役に立っていることを認識していますか。 【肯定的意見88%】</p>	A	<p>・ふれあいタイムの時間には、高学年児童がリーダーとして働くことができるような支援を行い、異学年の児童同士が互いに認めあい、自己有用感をもつことができるような指導をすることができた。 【積極的意見70%】【肯定的意見100%】 *教員の否定的意見は0%であり、児童、保護者ともに肯定的意見が8割を超えていることより、達成できたと考える。多くの児童がたてわり活動で異学年と交流することを通じて協働することの意義を感じ取ることができていた。特に、高学年は肯定意見の割合が高く、たてわり活動を通じて下級生への接し方を考え実行している様子が窺え、活動を通じて高学年としての自覚も生まれた。</p> <p>・委員会活動において、円滑な学校生活のためにはどのようにすべきかを考えさせて委員会活動を遂行させ、児童が自己有用感を味わうことができるように支援することができた。 【積極的意見71%】【肯定的意見100%】 *教員の否定的意見は0%であり、保護者の肯定的意見は9割近くである。また、児童の肯定的意見は中間期と比べて4ポイント上昇し8割近くであることより、達成できたと考える。</p>	<p>・異学年と交流するふれあいタイムで、高学年児童がリーダーとして働くことができるような支援のあり方を特活部が提案し、各々の教員は毎回の活動において自身の支援のあり方が適切であったか振り返るようにする。</p> <p>・委員会活動の紹介を行い、全校児童が委員会活動についての認識を深めることで、高学年児童への感謝の気持ちを持てるように支援する。</p> <p>・たてわり班活動の異学年交流を通じて、高学年の児童が自己有用感を育てているのがよい。自己有用感の確立は、有意義な社会生活を営むために必要な社会性なので、学校教育でしっかりと身に付けさせてほしい。</p> <p>・中間期と比べて児童の肯定評価が上がっており、教育活動が効果的に進められているのではないかと。教員の積極的意見が中間期と比べて4ポイント下がっているが、教員がしっかりとした教育活動をしていないわけではないと思う。今年はコロナ禍の中の教育活動であり、普段とは違った教育活動となったことで、教員にも忸怩たる思いがあったと思う。</p>
⑨	<p>○体育の授業で「体づくり運動」を実施し、児童らの体力向上を図る。</p> <p>○たてわり活動を通じて、児童らの体力向上を図る。</p> <p>○外遊びを紹介したり学級遊びを実施したりして、児童が進んで外遊びに取り組むような環境整備を行う。</p>	C	<p>・体育の授業で「体づくり運動」を実施し、児童らの体力向上を図ることができた。 【積極的意見63%】</p> <p>・たてわり活動を通じて、児童らの体力向上を図ることができた。 【活動を見合わせたため評価なし】</p> <p>・外遊びを紹介したり学級遊びを実施したりして、児童が進んで外遊びに取り組むような環境整備を行うことができた。 【積極的意見33%】</p>	<p>・体育の時間には、しっかりと体を動かして運動した。 【肯定的意見92%（中間）→94%（年度末）】</p> <p>・ふれあいタイムでは、楽しみながら体を動かした。 【肯定的意見91%（年度末）】</p> <p>・休み時間には、外に出て遊んだり、体を動かしたりした。 【肯定的意見70%（中間）→81%（年度末）】</p>	<p>・お子さんは、積極的に体を動かし、外遊びや運動をしていますか。 【肯定的意見77%】</p>	A	<p>・体育の授業で「体づくり運動」を実施し、児童らの体力向上を図ることができた。 【積極的意見90%】【肯定的意見100%】 *教員の否定意見は0%で、中間と比べると積極的意見は27ポイント上昇している。児童の肯定的意見も中間、年度末ともに9割を超えており、達成できたと考える。</p> <p>・たてわり活動を通じて、児童らの体力向上を図ることができた。 【積極的意見59%】【肯定的意見100%】 *教員の否定意見は0%であり、児童の肯定的意見も9割をこえているため達成できたと考える。しかしながら、肯定的意見のうち消極的意見が41%を占めており、今後はより積極的意見への転換を図ることが課題である。</p> <p>・外遊びを紹介したり学級遊びを実施したりして、児童が進んで外遊びに取り組むような環境整備を行うことができた。 【積極的意見76%】【肯定的意見100%】 *教員の否定意見は0%で、中間と比べて積極的意見が43ポイント上昇している。また、児童の肯定的意見も11ポイント上昇して8割を超えており、保護者の肯定的意見も8割近くあることから、達成できたと考える。</p>	<p>・体育の授業に「体づくり運動」を実施し、児童らの体力向上を図る。体育部から体力向上ステップアップシートを示し、本校の体力向上の取組について共通理解を図る。</p> <p>・運動場での班遊びを決める際に、体を動かして遊べる遊びの紹介をしていく。</p> <p>・体育部より体力向上のための遊びの紹介を行い、各学級で外遊びが推進されるよう働きかける。</p> <p>・中間、年度末ともに児童の評価が高く、教育活動が効果的に進められていると思う。今後も継続して取り組み、児童の体力向上を図ってほしい。</p> <p>・ふれあいタイムで異学年が交流して遊ぶことで、知らない間に体力向上が図られると思う。取組を継続してほしい。</p> <p>・中間期はコロナ禍の影響を受けて評価が低かった。教育活動の後半は、外遊びもできるようになり評価が上がったのだと思う。</p>
